

お子さんの歯の数について

お子さんのエックス線写真を撮ると、「乳歯の下に永久歯がない(先天欠損歯)」、「余分な歯がある(過剰歯)」ことに遭遇することがあります。

このうち先天欠損歯はどのくらい珍しいのでしょうか。日本小児歯科学会の調査研究によると、親知らずを除き一本でも永久歯の先天欠損がある割合は10.09%、40人学級で4人もいることになりました。

実は、先天欠損となりやすい歯にはある一定の法則があります。同じ種類では、より奥の歯が先天欠損となりやすいのです。つまり、上下とも前歯グループ中央から2本目の側切歯、小さな奥歯グループ2本目の第2小臼歯の欠損が起こりやすいと報告されています。大きな奥歯(大臼歯)では、親知らず(第3大臼歯)がないことはしばしばありますが、先天欠損には数えないとする調査報告が多く、手前2本の大臼歯はそれほど高い欠損率とはなりません。

先天欠損歯がある場合、対処方法は様々です。永久歯に生え変わるはずの乳歯をそのまま使うこともできます。ただし、乳歯はしばらくの間残ついても、徐々に歯根が吸収し40歳前後になると抜けてしまうケースもあります。また、子どもの頃に乳歯が抜けて空際ができてしまった場合、小児期は空際を保つ装置を使用し、

大人になってからブリッジ(空際の両側の歯をかぶせ物でつなぐこと)を作製するなどの処置を行います。もし、歯並びが悪い場合、先天欠損のスペースを歯列矯正治療で閉鎖することもできます。歯列矯正は、通常、自費治療ですが、今年4月から先天欠損歯が6歯以上ある方については健康保険の対象となりました。

一方、余分な歯(過剰歯)は先天欠損歯よりも発現率がやや低く、筆者の矯正歯科医院における調査研究で、過剰歯がある割合は5.1%、男性(9.3%)が女性(2.9%)の3倍となっていました。過剰歯があると歯列不正が起きやすく、これを抜歯後に歯列矯正が必要となることもあります。

お子さんの歯の数が気になる際には、かかりつけの歯科医師にお早めにご相談下さい。



9歳女児の口全体のエックス線写真
左のOのように乳歯の下に本来あるべき永久歯(第2小臼歯)が右のOの部分では欠損している。

●次回掲載予定日は8月18日です。

茨城県歯科医師会は設立100周年、これからも皆様のため活動します

茨城新聞2012/06/1

